

史 守 朗
山下しずお 2期目への決意

「誇りと夢が持てる」「安心と豊かさが実感できる」愛知・小牧へ
山下しずおは必ず実現します。

山下しずおは、小牧と愛知の未来を見つめ、

「子どもや孫の世代までを考えた、未来に責任を持てる政治」

「清廉公正な市民本位の政治」、「身近でわかりやすい政治」

をひたむきに実行してまいります。

そして、地に足をつけて皆様とともに一步一步、

「安心」「安全」「豊かさ」が“実感”できる愛知・小牧の実現、

環境・福祉・教育・経済・財政などあらゆる面で“持続可能”な夢ある社会の実現、

すべての皆様の“心豊かな しあわせな暮らし”の実現を目指し、

誠心誠意、全力を傾注してまいりますこととお誓い申し上げます。

愛知県議会議員
 しずお
山下 史守朗 プロフィール

＜現職＞

愛知県議会議員（平成15年4月初当選）
 自由民主党愛知県連 青年部長
 自由民主党小牧市支部 幹事長
 自民党“夢あいち21”提言プロジェクトメンバー
 小牧市都市計画審議会 委員
 各種市民スポーツ団体等 顧問

＜経歴＞

昭和50年小牧市生まれ 31歳
 小牧小学校、小牧中学校、旭丘高校を経て、
 立命館大学政策科学部 卒業
 自由民主党愛知政治大学院 第1期生
 参議院議員 鈴木政二(現内閣官房副長官) 元秘書
 家族：妻、両親、妹

＜愛知県議会における所属委員会＞

平成15年度 文教委員会
 少子高齢化対策特別委員会
 平成16年度 建設委員会
 平成17年度 企画環境委員会
 空港交通対策特別委員会
 平成18年度 産業労働委員会
 地方分権・道州制調査特別委員会(副委員長)

山下しずお活動報告誌
 NEXT 2007春季号

編集：山下しずおと考える会
 発行：山下しずお後援会

(事務局) 小牧市小牧4-102
 TEL.73-2373 FAX.71-9395



NEXT

あいち県議会議員

山下しずお

活動報告誌

“ネクスト” 2007春季号

発行：山下しずお後援会(部内資料)

小牧市選出
 愛知県議会議員

しずお
山下史守朗

<http://www.shizuo.jp>

山下しずおホームページ
 リニューアルしました！

史 守 朗 あ す
山下しずお“未来への挑戦”2期目へ

地元小牧、愛知のために益々活躍が期待される
 31歳の若き県議に皆様のご支援をお願いします

皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
 平素は、愛知県議会議員 山下史守朗ならびに山下しずお後援会に対し、温かいご理解ご支援を賜っておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

さて、いよいよ山下しずお2期目へ飛躍の時です。
 ご承知の通り、山下しずお県議は1期4年間、議会活動に地域活動にと、その若さと情熱を注いで精力的な活動を行ってまいりました。若くして地元と県とのパイプ役を着実に務め、実績を積み重ね評価を得ております。2期目には、1期4年の経験と実績をもとに、地元小牧、愛知のため、必ずや更なる活躍が期待される所でございます。

小牧の若きホープ、山下しずお県議に皆様の一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

愛知県議会議員選挙は3月30日告示 4月8日投票です

山下しずお後援会
 会長 船橋茂行

1期4年間、誠にありがとうございます！
これからも全力を傾注してまいります。



こんにちは、山下しずおです。

皆様には日頃よりあたたかいご指導を賜っておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

私の県議会議員1期目の任期も早終わりに近づき、いよいよ2期目へ向けた挑戦の春がやってまいります。

私は、この4年間、仕事に追われながらも皆様で充実した毎日を過ごさせて頂きました。その中で、多くのことを学び、皆様と共にいくつかの成果を上げることもできました。自分の関わった事が大きく動いていく様を見るにつけ、議員という仕事に改めてやりがいを感じています。

さて、現在の日本社会は、先輩方のご努力の賜物である平和と豊かさを享受しながら、一方で時代の荒波の中で様々なひずみ生まれ、大きな変革を迫られている、そんな時代ではないかと思えます。

少子高齢化、高度情報化、グローバル化など時代の潮流の中で、社会は日々急速に変化しています。私たちはその急流に押し流されることなく、しっかりと将来を展望し、主体的に未来を創造していかなくてはなりません。

一方、私たちの愛知に目を向けると、現代社会の様々なひずみを全国共通の課題として抱えながらも、一昨年には愛知万博の開催や中部国際空港の開港というビッグプロジェクトに成功を収め、同時にハード・ソフト両面にわたるインフラ整備が大きく前進し、いまや日本一元気と言われるまでに発展を遂げることができました。

愛知は今、自信と誇りと夢を持って、次なるステージへと更なる飛躍を目指し、グローバルな地域間競争が激化する世界を視野に、産業・文化・環境など様々な分野で戦略的な地域経営を展開しようとしています。

“活力あふれる豊かな産業先進圏域へ” “新しい循環型環境先進圏域へ”

“安心して安全に暮らせる生活先進圏域へ” “国内外・地域内交流先進圏域へ”

まさに今は、愛知の未来にとって極めて重要な時期です。愛知の元気をさらに前進させるとともに、愛知の全域、生活の隅々まで“安心と豊かさが実感できる”愛知を実現しなくてはなりません。

私は、次なる2期目の4年間も、皆様の温かいご支援により初当選させて頂いた4年前の“初心”を忘れることなく、国と地域の将来をしっかりと見据えながら、子どもや孫の世代までを考えた責任ある政治、清廉公正な市民本位の政治、身近でわかりやすい政治をひたむきに実行してまいります。

そして、地に足を付けて皆様とともに一步一步、「誇りと夢が持てる」「安心と豊かさが実感できる」そんな明るい社会を全力で実現してまいります。

どうか今後とも皆様のご指導、ご支援を心よりお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げまして、ご挨拶といたします。

平成19年3月吉日

愛知県議会議員

山下 史守朗

史守朗
山下しずお 2期目への決意

「誇りと夢が持てる」「安心と豊かさが実感できる」愛知・小牧へ

山下しずおは必ず実現します。

未来への挑戦。

「誇りと夢が持てる」「安心と豊かさが実感できる」愛知を実現。

県議会議員1期4年の経験と実績の上に、小牧と愛知の未来を見つめ、地に足を付け全力を注いでまいります。皆様のいっそうのご支援をお願い申し上げます。

山下しずお

小牧から

史守朗

飛躍する愛知の将来像

万博・空港というビッグプロジェクトも成功させ、いまや日本一元気な愛知。その理念と成果を礎に、「活力あふれる豊かな産業先進・愛知づくり」と「循環型環境先進圏域・愛知づくり」を力強く展開します。

教育の新生

子どもの現状は、大人社会の反映。学校現場改革とともに、社会全体の取り組みが不可欠です。核家族化や地域コミュニティの崩壊などで失われた「家庭や地域の教育力」を補完するため、行政や学校と家庭・地域が連携する新しい関係づくりを進めます。ゆとり教育の見直し、命を大切に教育・道徳教育の強化、厳格な生徒指導のルールづくりを図ります。

少子化・人口減少・高齢社会への対応

育児負担の軽減・公平化を図り、安心して子どもを産むことのできる「みんなで子育て社会」づくりを全力で取り組みます。さらに、持続可能な公平な社会保障制度を再構築し、高齢者も障害者も誰もがイキイキと安心して暮らせる、あたたかい福祉社会の実現をめざします。

安心・安全な暮らしづくり

治安回復に向けた警察・行政・市民一体の地域防犯活動の推進、交通安全対策、洪水地帯防犯対策、福祉・保健医療体制の充実、森林・農地の保全、食の安全対策など、暮らしの安心・安全を守ります。

行財政改革

無駄遣いをなくし、市場化の幅広い導入や市民・NPOなどの参加による公共サービスの新しい仕組みづくりを積極的に進め、財政収支の早期健全化を図るとともに、市民・県民の皆さんが納得できる、わかりやすく、結果で効率的な行政へ改革します。また、不公正な結果を生まない政治をめざします。

「飛躍する愛知の将来像」

山下しずおの“未来への挑戦” その1

「活力あふれる豊かな産業先進圏域・愛知」と「新しい循環型環境先進圏域・愛知」万博・空港というビッグプロジェクトを成功させ、いまや日本一元気な愛知。その目指すべき将来像は、万博の理念と成果を礎に、「産業」と「環境」が調和した新しい未来だと山下しずおは考えます。

産業・雇用



山下しずおは1期4年間のうち、県議会において「名古屋空港の新展開について」(15年11月議会)「自動車環境戦略について」「都市景観について」(16年2月議会)「航空宇宙産業の振興と名古屋空港の活用について」(17年2月議会)と、地域の産業や雇用の問題、そして環境問題に積極的に取り組み、愛知の進むべき方向性を問いかけてきました。

▼登壇翌日の中日新聞 朝刊
(記事の書き出しに「山下史守館」とある)

特に、山下しずおが県議会で提案した、県営名古屋空港にJAXA研究開発拠点を誘致することについてはメディアで大きく取り上げられました。(登壇当日の夕刊、翌日の朝刊各紙)

山下しずおの提案により県は誘致に積極的に動き出しました。名古屋空港は地域にとっても貴重な財産であり将来に夢を持てる有効な活用を図るべきです。

今後とも、航空宇宙・ナノテク・バイオなど次世代を担う新産業の振興と、世界に通用する人材の育成、地域経済の発展のため、山下しずおは全力を尽くします。

山下しずおの提案がメディアで大きく報道されました



▲登壇当日の夕刊各紙一面

2005年(平成17年)3月5日(土曜日) 朝刊(26)

県内版

名古屋へ航空機研究施設

官民一体で誘致活動

知事が表明

【名古屋】県は、航空機研究施設を誘致する方針を明らかにした。県営名古屋空港に、航空機研究施設を誘致する方針を明らかにした。県営名古屋空港に、航空機研究施設を誘致する方針を明らかにした。県営名古屋空港に、航空機研究施設を誘致する方針を明らかにした。

環境



地球温暖化など“待ったなし”の環境対策。山下しずおは、県議会の一般質問でも、海外のエコカー普及プロジェクトの成功例を挙げて、愛知県が進める「自動車環境戦略」について力強い推進を促すなど、環境問題に強い関心を持って取り組んでいます。

- 1、地球温暖化防止に対する取組の強化
- 2、ゼロ・エミッションを目指した資源循環ネットワークの構築
- 3、生物多様性の保全
- 4、森林の保全、大気汚染防止、河川や海岸の浄化対策の促進

コラム “持続可能な社会”

現代の日本社会で希薄になってきたもの。そのひとつは、「思いやりの心」だと思います。

他人を思いやる心がないために、いじめや犯罪を始め、いろいろな問題が起こっています。

“他人”はなにも同じ時代に生きる隣人とは限りません。世代を超えて、これから生まれる子ども達にも「思いやりの心」を寄せることが必要です。

今、環境問題や財政問題など、世代を超えて持続可能な社会が模索されています。

“地球は未来の子ども達からの借り物”であることを“愛・地球博”が教えてくれました。素晴らしい万博を成功させた愛知だからこそ、いろんなところで「思いやりの心」を発揮して、難しい問題もみんなで解決していけるのではないかと期待しています。

山下しずお

教育



子どもの現状は、大人社会の反映です。学校現場の改革と同時に、社会全体の取組が不可欠です。

山下しずおは議員としての初年度に文教委員会に所属して以来、核家族化や地域コミュニティの崩壊などで失われた「家庭や地域の教育力」を補完するための、行政・学校・家庭・地域が上手く連携する新しいシステムの構築について考え続けています。ゆとり教育の見直しや、命に大切に教育の推進、規範意識の醸成、厳格な生徒指導のルールづくりなどを進めるべきだと思います。

未来を担う子ども達の教育の在り方に対して、今一度社会全体の問題として誰もが真摯に向き合うことが必要です。

▼文教委員として小学校を視察



「教育の新生」

山下しずおの“未来への挑戦” その2

「少子化・人口減少・ 高齢社会への対応」

山下しずおの“未来への挑戦” その3



急激な少子高齢化、人口減少社会のインパクト！
 →このまま人口減少が続けば、我が国の人口は50年後には3割減、100年後には6.5割減の4569万人に！
 →65歳以上の老年人口比率は年々上昇し、2005年の20.2% から2055年には40.5% に倍増
 →2000年に生産年齢人口4人で支えているお年寄りを、2050年には1.5人で支えなくてはならなくなります。

子育て支援

介護・福祉



▲高齢者福祉施設の視察調査

我が国はあろか、世界中で誰も経験したことのない急激な高齢化、人口減少社会のインパクトを、行政や社会がどう受け止めていくかは極めて大きな課題です。

山下しずおは、子育て世代の感覚から実効性ある少子化対策を訴え、育児負担の軽減・公平化を図り、安心して子どもを産むことのできる「みんなで子育て社会」づくりに全力で取り組んでいます。

また、人口減少を前提とした政策への転換を図り、持続可能かつ公平な社会保障制度を再構築し、高齢者も障害者も誰もがイキイキと安心して暮らせる、あたたかい地域福祉の実現を目指しています。

老老介護の果ての悲しい事件や、幼い子ども達に関わる心の痛む事件が多発する中ですが、急激な少子高齢化の影響もあり、福祉の在り方も変化を余儀なくされようとしています。

介護政策については、施設介護から在宅介護へと国の方針が転換しています。障害者政策も、障害者自立支援法の施行により、地域で生活する道の模索が求められています。一方で、この春からスタートする「認定こども園」制度には、地域に対する子育て支援の充実が期待されています。

こうした中、子育ても介護も障害者支援も、教育同様、これまで以上に“地域”で支え合うことが求められています。

地域における、これらの受け皿をきちんと築いていくことが必要であり、山下しずおはこの問題に真剣に取り組んでいます。

子育て世代を代表して――

山下しずおは、子育て世代の感覚から、少子化対策の“持論”を訴えてきました。男女の働き方の見直しなど総合的な施策とともに、経済的負担の軽減が重要であり、公平性の観点から「子どもがいてもいなくても負担は同じ」という原則をつくる必要があると山下しずおは考えています。

年金などの社会保障制度が世代間の順送り成り立っている以上、次世代の育成は社会全体の問題であり、「子育て費用をみんなで公平に負担する仕組みの構築」が不可欠です。

山下しずおは、平成19年2月議会で、子育て費用の軽減について神田知事の考えを質し、知事から具体的な回答を引き出しました。



選挙公約の子育て支援策

知事、6月議会にも提案

▲山下しずおの質問に対する知事の答弁が掲載された新聞
 子どもの医療費無料化の拡大や、不妊治療助成の拡充、
 第3子以降の保育料無料化の拡大などが実現します！

行革

愛知県はここ数年間で数千億円規模の行革効果を達成していますが、未だ厳しい財政状況を改善するために、更なる改革が求められています。また、人口減少時代に対応した行政や社会の新しい仕組みづくりも急務です。

山下しずおは、平成16年度の建設委員会において、皆様から要望の多い河川の草刈りについて市民協働型の新しい仕組みの創設を提案し、実現させました。

山下しずおは、行政の無駄遣いをなくし、市場化の幅広い導入や市民・NPOなどの参加による公共サービスの新しい仕組みづくりを積極的に進め、財政収支の早期健全化を目指しています。

具体的には、収支の均衡を意味するプライマリーバランスの実現について、神田知事が前倒し実施を表明している平成22年度での実現を着実に達成するようチェックしていくとともに、市民・県民の皆様が納得できる、わかりやすく簡素で効率的な行政への改革をさらに強く促していきます。

特に「行革大綱2005」の着実な実施を推進し、行革大綱が目指す“協働”の新たな仕組みづくり＝「新たな地域経営システムの構築」を図っていきます。

社会の変革期だからこそ、山下しずおの若い感性と行動力が必要です。

「行財政改革」

山下しずおの“未来への挑戦” その4

「安心・安全な暮らしづくり」

山下しずおの“未来への挑戦” その5

防犯・防災

保健・医療

食と農

治安回復に向けて、愛知県では警察官をこの5年間に1,575人増員しましたが、警察・行政・市民一体の地域防犯活動の推進が不可欠な時代です。

山下しずおは、平成18年2月県議会において、「安全なまちづくりと自主防犯活動について」議案質疑を行い、自主防犯団体の活動に対する県の強力なバックアップを強く求めました。

現在、県下全小学校区に約3,000の自主防犯団体が設立され、地元小牧でも地域防犯活動が大変活発になっています。

お陰様で県内の犯罪の認知件数はピークを過ぎて減少傾向にあります。

治安の完全回復までの道のりはまだまだ遠いですが、この調子で少しでも早く安全な街を取り戻したいと願っています。

治安対策のほか、交通安全対策、洪水地震防災対策、医師・看護師確保を始めとする福祉・保健医療体制の充実、森林・農地の保全、食の安全対策など、県民の皆様のくらしの安心・安全を守ります。

▼愛知県消防操法大会にて
(小牧市消防団 第一分団の皆さんと)



▲防犯パトロール活動に参加

多文化共生

在日外国人との共生の問題については、ブラジル人を中心に約8,400名の外国人が暮らす地元小牧市において、特に対策が求められている喫緊の課題です。

山下しずおは、小牧市内にある県営住宅の自治会などと連携しつつ、平成18年6月県議会において、「在日外国人との共生」をテーマに一般質問を行いました。

調査の結果、入国管理法の不備によって、在日外国人の居住実態について正確な把握がどこにもなされていない現実や、在日外国人の県営住宅への集住率が極めて高いことも事実として明らかとなりました。

このことから、逆に、県営住宅に対する集中的な取組が、多文化共生社会づくりの原動力となるよう、県の強い取組を働きかけていきます。

在日外国人との共生問題は言葉や文化の壁など多くの困難さを孕み、対策はまだ結についたばかりですが、山下しずおは、外国人を多く雇用する企業との連携等も視野に、今後とも積極的な取組を行ってまいります。

渋滞対策

名古屋高速
小牧線の
小牧北出口
の渋滞対策
について

小牧市内では、頻りに渋滞が起こっており、数多くのご要望を頂いております。予算の制約上、厳しい状況ではありますが、今後とも全力を傾注してまいります。

さて、山下しずおは、平成18年6月県議会において、「名古屋高速の小牧北出口の渋滞対策」について質問しました。

県は現在、村中交差点の立体交差事業を行っており、あと2、3年で完成ですが、これは41号を155号が跨ぐ形であって、名高速を下り41号を北上するには依然として信号を通過する必要があり、不安が残ります。

そもそも、大きな交差点の手前、交通の集中するところに、高速の最終下り口を持ってきたところに渋滞の要因があり、「高速出口をもう一つ、155号を北へ越えたとところにつくるべき」と山下しずおは考え、県に提案を行いました。

この件は、国も関わる大きな事柄ですので、すぐに実現とはいきませんが、山下しずおは、県はもとより国に対しても精力的に働きかけを行っていきます。

公共交通

桃花台線の
廃止問題と
公共交通の
今後の在り
方について

山下しずおは、桃花台線ピーチライナーについて、初当選以来、折に辱れて本会議や委員会でも取り上げてまいりました。

昨年、とうとう桃花台線の廃止が決定されましたが、「桃花台線は多額の累積赤字を抱え採算性確保の見通しが立たないことなどから、一路線へのこれ以上の公費投入は県民の理解を得られない」との判断には、議員として一定の理解を示さざるを得ないものの、地元住民、利用者、小牧市議会等からの再三の判断延期の申し入れにも関わらず廃止が決定されたことは、地元として誠に残念と言わざるを得ません。

高齢者や障害者など車に乗れない交通弱者にとって、電車やバスといった公共交通は日常の移動手段として不可欠なもので、高齢化が進む今日、公共交通の重要性は益々高まっています。

こうした中、桃花台線廃止後の地域住民の足の確保は必須の重要課題であり、山下しずおは、県に対し、代替バス網の充実などについて、責任ある立場として真摯な姿勢で住民の要望に対応するよう強く求めてまいりました。

桃花台以外の地域についても、循環バス網を始め公共交通の充実について、山下しずおは県や市に対して今後とも強い取組を促してまいります。

地元小牧の課題

山下しずおの“未来への挑戦” 小牧から